

交通遺児育英会の
存在を知っていただき
さらに支援を広げたい

交通遺児育英会

会長 石橋健一氏



「私だけは大丈夫」
という思い込みは
忘れてください

タレント
風見しんごさん

ハンドルの重みは命の重み

「せめて高校だけは」の
声から始まり
多彩な支援活動を実施

― 交通遺児育英会の目的
と支援活動の内容について
教えてください。

石橋会長 高度経済成長期の昭和40年代、交通事故による死者数が年間1万6千人を超えている中、夫を事故で失ったお母さんたちの「せめて、わが子を高校にだけは行かせたい」という悲痛な声が社会と国を動かして、その支援組織として1969（昭和44）年に交通遺児育英会が設立されました。当初は、高校進学希望者への奨学金支援からスタートし、順次、大学、大学院と枠を広げ、現在では専修学校も含めたすべての学校を対象としています。交通遺児育英会では設立以来、5万8千人を超える交通遺児に、総額584億円もの支援を実施してきました。また、奨学金のほかにも家賃補助や運転免許取得費用補助に加え、近年は大学等の進学受験費用補助、資格試験等の受験費用補助など、子どもたちの進学や自立を支えるためのさまざまな制度の拡充に力を入れています。さらに、交通事故ゼロ・飲酒運転根絶を目指し、全国で無料出張講演なども行っています。

風見さん その支援活動の一つとしてアメリカでの語学研修も行っているの伺います。私も3年ほど前からアメリカで生活しているのですが、英語を学ぶだけではなく、子どもたちが異文化に触れ、グローバルな視点を持つ意味でも素晴らしい支援だと思います。

石橋会長 ありがとうございます。夏休み期間の約3週間の研修ですが、親御さんたちに話を聞きますと、帰国した時に顔つきが違う。最初は全く想定していなかったのですが、語学の習得以上に子

交通事故で親を亡くした子どもたち（交通遺児）の学費を支援する交通遺児育英会。今回は、その会長を務める石橋健一氏と、タレントの風見しんごさんにお話を伺います。風見さんは、18年前に当時10歳だった長女えみるさんを交通事故で亡くして以来、講演会やイベントを通じて交通安全や命の大切さを訴え続けています。お二人には、支援活動の内容や、子どもたちの成長に必要なことを語っていただきました。

どもたちの自立心を育てるのに役立つ研修なのだ、こちらが気づかれました。

風見さん 短期間であっても実際に海外で生活することは、子どもたちにとってすごく良い経験になると思います。

― 交通遺児育英会では、今後の支援策の検討に活かすため、奨学生を対象に「ヤングケアラ」調査を実施されたそうですが、その背景について教えてください。

石橋会長 これは奨学生OGの女性から指摘されたことがきっかけでした。確かに交通遺児家庭のような環境にはヤングケアラが存在する可能性が高いと考え、2024年3月に調査を実施しました。その結果、奨学生全体で15・8%がヤングケアラとして家族の世話をしていることがわかったのです。そこで現在は、ヤングケアラと考えられる方たちを訪ねて状況をヒアリングする一方、専門家に協力していただきながら具体的な支援方法を検討している段階です。

風見さん ヤングケアラは本当に大きな問題だと感じています。私の場合、もう大人になっていましたが、60歳を過ぎたばかりの父がアルツハイマーを発症し介護をした経験があるのです。当時、介護保険制度が始まったばかりということもあり、支援も手探り状態でした。

俳優、タレント
風見しんごさん

1962年生まれ。広島県出身。82年、TBS『欽ちゃんの週刊欽曜日』で芸能界デビュー。83年に『僕、笑っちゃいます』で歌手デビューし大ヒットとなる。以降、映画やドラマ、バラエティ番組で活躍。2023年1月より、アメリカ・ロサンゼルスに在住。

もう、いい大人になっている自分でも戸惑うばかりの毎日でしたから、それをお子さんが担うとなると本当に大変だと思っています。今から真剣に取り組んでいかないといいけない問題だと実感しています。

「自分は大丈夫」は禁物
悲惨な想いを
繰り返さないために

― 風見さんは2007年に娘さんを交通事故で亡くされて以来、交通事故死亡者をなくすために、全国各地で講演会や警察が主催する交通安全関連イベントなどに積極的に参加されています。それらの活動を通じて、最も伝えたいことは何でしょうか。

風見さん 悲惨な交通事故のニュースを目にするたびに「大変だな、悲惨だな」と感じていましたが、実際に自分が被害者遺族の立場になると、その衝撃は想像をはるかに超えるものでした。大げさな表現をするわけではなく、本当に地獄だな。それが最初に感じたことでした。こんな想いを誰にもしてほしくない。だから交通事故

故を減らす、ゼロにしたい。そのためには意識を変えるしかない。なかなか難しいことなので、時間をかけて少しずつでも変えていくしかないのですが、そういう想いになった中でとても後悔したのは、娘が事故で亡くなる前まで自分に限って交通安全に限ってそんなことは起こらない」という思い込みがあったことです。何の根拠もないのですが、そのことをものすごく痛感しました。だから講演の最後に「皆さんに一つだけお願いがあります」と話すのは、ハンドルを握る時、あるいはお子さんが自転車に乗る時、「私だけは大丈夫」という思い込みは忘れてください。どれだけ真面目に生きていようが、どれだけ大きな夢に向かって頑張っていようが、事故はその相手を選んできません。だから「私は大丈夫、僕は大丈夫」という考えだけは忘れてください。いつも伝えていきます。

石橋会長 風見さんのように大切な人を失う悲しみや苦しみを体験された方のお話は、聞く人の胸に響いてくると思います。ふだん、命の大切さや事故についてあまり考えない機会のない方も、風見さんのお話を聞くことで安全運転の意識が芽生えてくるのではないでしょう。か。おそらく、ご自身にとって辛い記憶を語られるのだと思いますが、とても大切な活動をされていると感じます。

風見さん 悲惨な交通事故のニュースを目にするたびに「大変だな、悲惨だな」と感じていましたが、実際に自分が被害者遺族の立場になると、その衝撃は想像をはるかに超えるものでした。大げさな表現をするわけではなく、本当に地獄だな。それが最初に感じたことでした。こんな想いを誰にもしてほしくない。だから交通事故

風見さん 交通遺児への奨学金をはじめ、海外語学研修やヤングケアラへの支援まで、本当に幅広い活動をされているのだと感じました。こういった支援活動は多ければ多いほど良いのですが、支援の存在を知らないのでもったいない活動があることをもって知っていただきたいと思います。私が交通安全に関する講演会を続けてきたのも、「自分にも起きるかもしれない」という意識を広げていくことが大切だと感じたからなのです。

石橋会長 仰る通りですね。私たちも、支援を必要とする人たちが、われわれのようない組織を支援しようと思っている人たちに交通遺児育英会の存在を知っていただくことも重要な仕事だと考え、広報に力を入れているところ。その活動の一つとして、親子で事故被害体験を語っていただく無料出張講演を行っています。その講演会で、あるお母さんが「ハンドルの重みは命の重み」と語ってくださったのですが、まさにその意識が重要だと思つたのです。風見さんが仰る「私だけは大丈夫」という考えを捨てることにも通じる重要なメッセージだと感じています。その想いを胸に多くの人に交通遺児育英会の存在を知っていただくと共に、支援を続けていきたいと思います。

奨学金利用者の声

小学校2年生の時に事故で父を亡くし、小学校5年生の時から補聴器をつけ始めました。そんな環境であっても大好きなバスケットボールを続けることができましたし、何かを諦めるようなこともなく幸せに暮らしてこれたのは、母をはじめ素晴らしい先生や大人の方たちとの出会いや支えがあったからだと感謝しています。

大学進学に際しても交通遺児育英会の支援を受けられたことで、経済的な不安を抱くことなく希望の大学を目指し、楽しい大学生活を送ることができました。来年、大学卒業後は中学生時代からの憧れだった小学校教諭になります。これまで多くの人に支えられてきた感謝を胸に、今度は私が子どもたちの道標になり、少しでも力になれたらと考えています。

名古屋学芸大学4年 萩原 朱莉音さん

希望と勇気と自立

当会は「交通事故をなくし、これ以上遺児を増やしてはならない」との切実な願いにより昭和44年3月に設立されました。皆様の温かいご支援のもと東海三県の交通遺児に、小学校入学や中学卒業の祝金・グランピング・励ます大会・旅行・ふれあい懇親会など開催し、保護者と共に寄り添いながら見守り自立への支援と、交通事故により子ども達が心を痛めない社会を強く願い交通事故ゼロを目指す活動を行っています。今後も、子ども達のため関係団体等と連携・協力して参ります。皆様の温かいご支援が、未来へととはばたく子ども達の「心のお守り」となります。

公益財団法人 東海交通遺児を励ます会
TEL 052-682-9819

12月1日は「三重県飲酒運転0（ゼロ）をめざす推進運動の日」です。

交通事故ゼロ、飲酒運転ゼロを目指して、無料出張講演を行っています。

交通遺児や保護者の方の体験を視聴いただくことは、交通安全の大切さを実感する絶好の機会となります。ぜひ、お問合せください。

交通遺児育英会は、50年以上にわたり、保護者が交通事故で亡くなったり、重度の後遺障がいのため、経済的に修学が困難になった子どもたちに、高校や大学・専門学校などへの進学を支援し続けています。修学を終えると、社会に役立つ人材として羽ばたいていきます。私たちの活動は大きく⑤つの事業で成り立っています。

- ① 奨学金の無利子貸与（一部給付）
- ② 奨学生の指導および育成と交流
- ③ 学生寮「心塾®（こころじゅく）」の運営
- ④ 修学支援金の給付
- ⑤ 交通安全推進運動への協賛・協力、無料出張講演等



私は、進学の夢をあきらめない。
公益財団法人 交通遺児育英会

募金課 ☎ 0120-521285 (平日9:00~17:30)
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-1 平河町ビル3階

交通遺児育英会 検索
bokinka@kotsuiji.com

